

令和6年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病 赤かび病 (防除情報第17号)	並 —	並 やや多
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類	並 やや少	並 やや少
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや少 少 並 やや少 やや多	並 やや少 少 並 やや少 やや多
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや多 並 やや多	やや多 並 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 アザミウマ類	並 やや多 やや多 やや少 並	並 やや多 やや多 やや少 並
たまねぎ (早生)	べと病 白色疫病 ネギアザミウマ	やや少 並 やや少	並 並 やや少
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 (越冬病斑) 並 (越冬病斑) やや少	並 並 やや少
果樹共通	カメムシ類 (技術情報第4号) クワゴマダラヒトリ	やや少 少	やや少 少
茶	カンザワハダニ クワシロカイガラムシ	少 少	少 少

【発生予報】 本文の () 内は平年値

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった(大麦：過去10か年平均 発病茎率0.0%、発生圃場率1.1%、小麦：過去10か年平均 発病茎率0.0%、発生圃場率0.7%)。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 赤かび病

令和7年3月14日付け**病害虫発生予察防除情報第17号**による。

ばれいしょ

1. 疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（21筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

ジャガイモ疫病初発時期予測システム（FLABS-N）による3月14日時点の予測では初発時期に到達した地点はない。今後の気象推移にもよるが、3月中下旬以降に初発時期に到達する地点が出てくると見込まれる。

今後の発生予察情報や病害虫防除所ホームページに掲載するFLABS-Nによる初発時期および防除開始時期を参考に適期に防除を行う。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（21筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.5%、発生圃場率8.9%）。

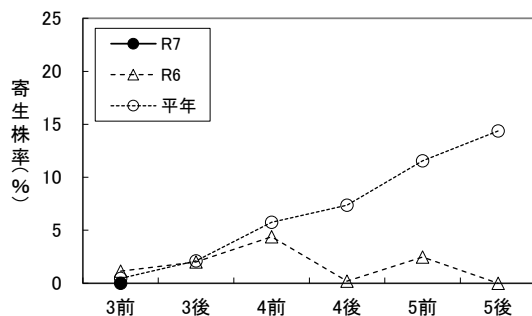


図 ばれいしょアブラムシ類寄生株率の推移

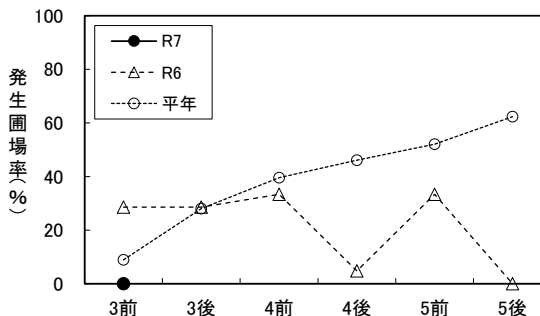


図 ばれいしょアブラムシ類発生圃場率の推移

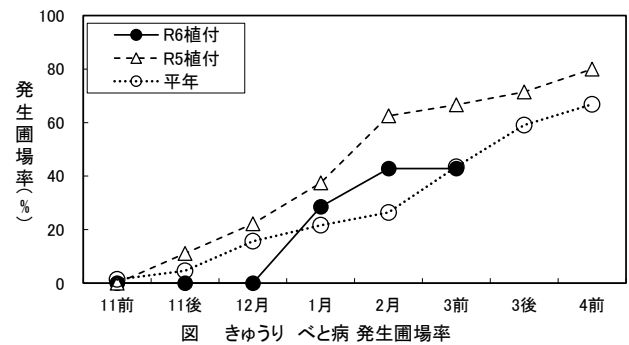
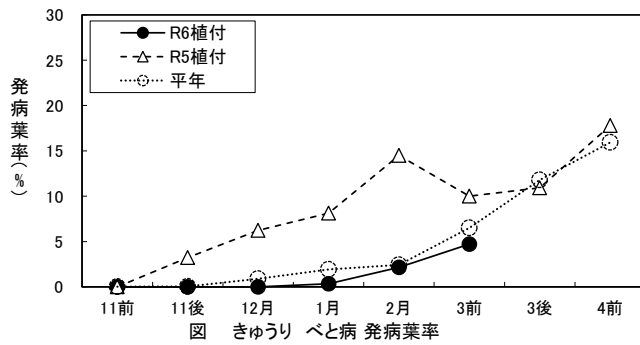
きゅうり

1. ベと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、発病葉率は4.7%（6.5%）、発生圃場率は42.9%（43.5%）であった。



2. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、発病葉率は1.2%（4.8%）、発生圃場率は42.9%（56.6%）であった。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.1%、発生圃場率2.2%）。

4. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（発病率0.0%、発生圃場率1.1%）。

5. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率2.8%、発生圃場率35.9%）。

6. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（7筆）の結果、寄生葉率は1.7%（1.4%）、発生圃場率は42.9%（24.2%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので、黄色粘着トラップを施設内に設置して早期発見に努め、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 退緑黄化病の発生が多い状態（3月前期巡回調査結果 発病株率54.1%、発生圃場率100%）が続いており、次作に持ち込まないように防除対策を徹底する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P160～163の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

オ 栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
(2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.1%（0.4%）、発生圃場率は33.3%（14.9%）であった。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病果率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は22.2%（7.6%）であった。発病複葉率は1.9%（0.6%）、発生圃場率は11.1%（20.5%）であった。
(3) 防除上注意すべき事項
ア 夜間は暖房機を断続的に稼働し、曇雨天日や気温が低い日もできるだけ換気を行いハウス内が多湿にならないような管理に努める。
イ 被害果等の発病部位や整枝等で除去した茎葉は伝染源となるので速やかにハウス外へ持ち出し適切に処分する。
ウ 予防的な薬剤防除に努め、特に曇雨天が続くことが予想される場合は徹底する。
エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P182～187の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
(2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生複葉率は6.2%（2.2%）、発生圃場率は33.3%（36.8%）であった。
(3) 防除上注意すべき事項
ア 本虫は密度が高まると防除が困難になる。今後、気温の上昇に伴い急激に増加する時期となるので、黄色粘着板等で発生状況を把握し、低密度時の防除に努める。
イ タバココナジラミは黄化葉巻病や黄化病の病原ウイルスを媒介するので、防除を徹底する。
ウ 本虫は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
エ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。
オ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P188～191の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
カ 施設内および周辺の雑草は生息・増殖場所となるので除草する。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査（26筆）の結果、葉での発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.4%）。また、果実での発生も認めなかった（過去10か年平均 発病果率0.0%、発生圃場率0.4%）。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病果率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は26.9%（14.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 夜間は暖房機を断続的に稼働し、曇雨天日や気温が低い日もできるだけ換気を行いハウス内が多湿にならないような管理に努める。
- イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので見つけしだい取り除き、ビニール袋等に密閉してハウス外に持ち出し処分する。
- ウ 収穫終了後の果梗枝は伝染源となるので早めに取り除く。
- エ 予防的な薬剤防除に努め、特に曇雨天が続くことが予想される場合は徹底する。
- オ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は3.6%（0.9%）、発生圃場率は34.6%（10.7%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

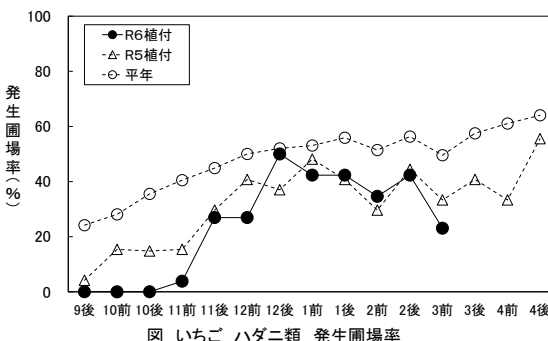
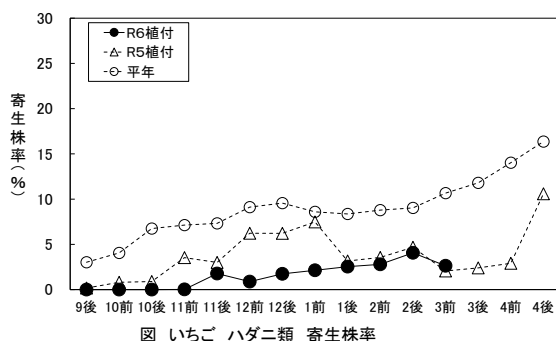
- ア 新葉、がく部、芽部に寄生しているので圃場をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- エ 施設内及び施設周辺の雑草は、アブラムシ類の生息場所となるため除去し、環境整備に努める。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は2.6%（10.7%）、発生圃場率は23.1%（49.6%）であった。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は2.4%（過去9か年平均2.6%）、発生圃場率は42.3%（同 41.8%）であった。

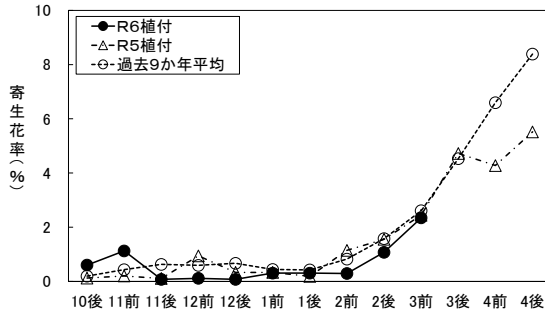


図 いちご アザミウマ類 寄生花率

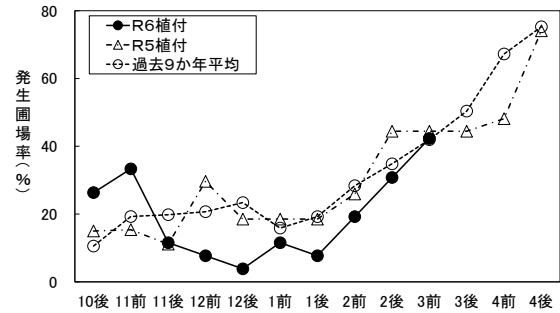


図 いちご アザミウマ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。

たまねぎ（早生）

1. ベと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は0.0%（0.2%）、発生圃場率は6.3%（32.7%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

ウ 気象に基づく二次伝染推定モデルによると、本病の感染に好適、準好適な条件が3月以降出現しており、潜伏期間後に発病する可能性がある（表）。

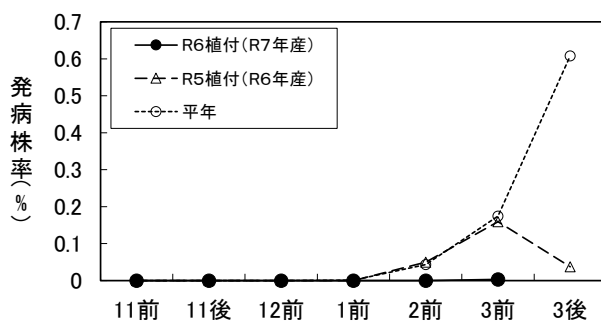


図 たまねぎべと病発病株率の推移

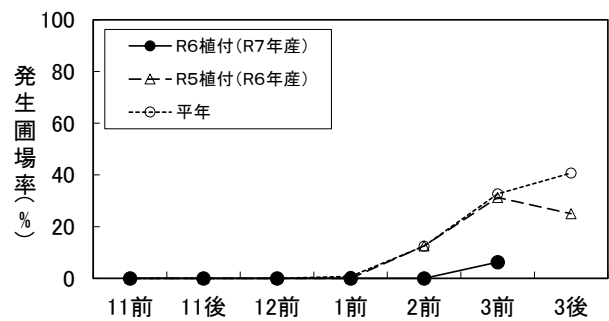


図 たまねぎべと病発生圃場率の推移

表 タマネギべと病二次伝染推定モデルによる感染・準感染好適条件の出現状況（3月14日時点）

2025年	3月												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
長崎	◎	○	○	○							○	○	
島原	◎	◎	○	○							○	◎	
佐世保	◎	◎	○	○							○	◎	
平戸	◎	◎	○	○					○		○	◎	

注1) ◎：感染好適条件 ○：準感染好適条件

注2) 気象データはアメダスデータ（気温・風速・湿度）を用いた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ベと病は条件が整うと感染と発病を繰り返し急激に蔓延するため、今後の気象情報等に留意し、一次感染株の発生が見られる圃場では早急に薬剤散布を行う。また、発病が見られない圃場でも降雨前に定期的な薬剤散布を行う。
- イ 薬剤散布量が十分でないとう効果が低下するので、薬剤には展着剤を加用し、株全体が濡れるようむらなく散布する。

2. 白色疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は5.0%（16.8%）、発生圃場率は43.8%（56.3%）であった。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.0%（0.0%）、発生圃場率は8.3%（2.0%）であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.2%（0.4%）、発生圃場率は30.6%（19.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病枝や葉を除去する。

イ 発芽前の薬剤散布は防除効果が高いため3月中旬に銅水和剤（クレフノン加用）を散布する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.8%（2.3%）、発生圃場率は30.6%（25.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P390～393（みかん）、P398～401（かんきつ）の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

果樹共通

1. カメムシ類

令和7年3月14日付け病害虫発生予察技術情報第4号による。

2. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

令和6年10月に実施した産卵樹上（アカメガシワ、カラスザンショウ）における幼虫巢の発生調査の結果、発生を認めなかった（発生程度 0.0）。

※以下の基準により発生程度を達観で調査した。

調査基準：極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生葉率は0.2%（2.0%）、発生圃場率は8.3%（30.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 2月下旬頃から産卵を始めるので、一番茶の被害を予防するためにも早春の防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P432～435の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

2. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率5.2%、発生圃場率 36.5%）。

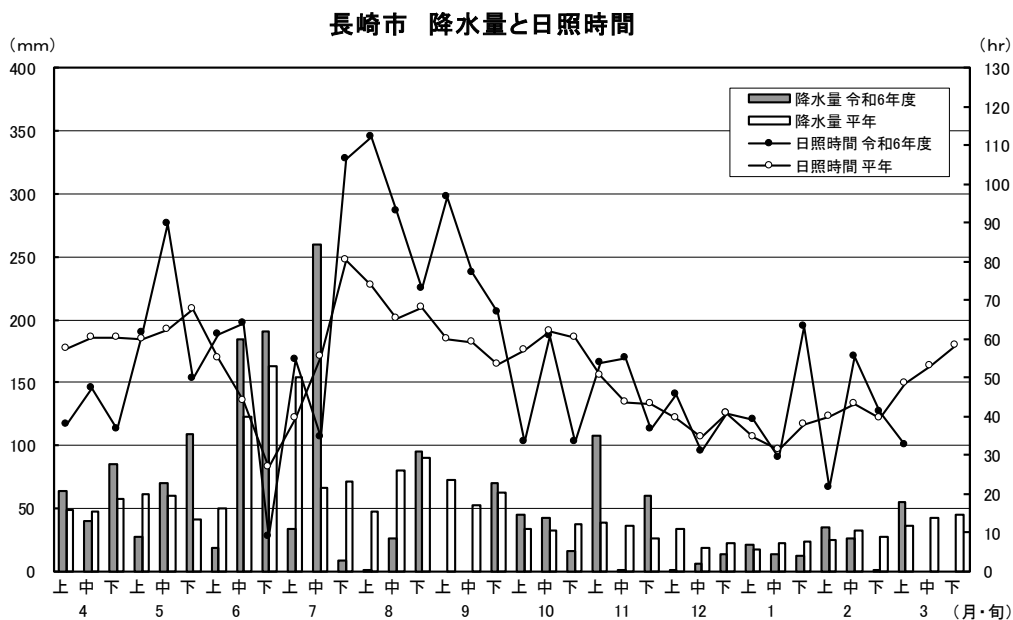
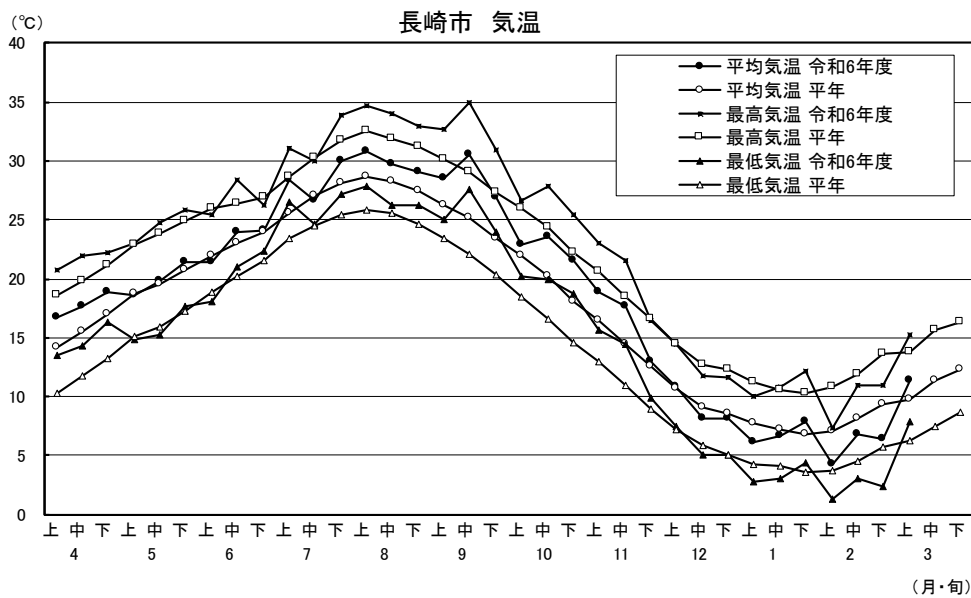
【参考】

(令和7年3月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和6年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

